

課題になっている行動（気になる行動）

終わりなどの 見通しを持たない

も

もう少し待っては
いつまで待つのか？

もう少しで終わり
はいつまで待つのか？



監修・文 水野敦之 絵：宗貞由貴

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
<ul style="list-style-type: none"> ■ 様々な状況の変化 終わるタイミング、終わりの情報などが変わる ■ 影響を与える刺激や情報 本人がイメージできない曖昧な指示 ■ 必要な支援がない いつまで、どのように待つかの指示がない <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>受容コミュニケーション</u> の特性：曖昧で抽象的な指示の理解が難しい ■ <u>時間の整理統合の困難さ</u> ：いつまでどのように待てばいいのかのイメージが難しい ■ <u>空間の整理統合の困難さ</u> ■ <u>想像思考の困難さ</u>：待ち時間どのように待てばいいのかのイメージが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 習慣になっているものがある ■ 自分流の気づき・考え方をもつ曖昧な時間が続くと、適切ではない活動です。 <input type="checkbox"/> 過去に経験したこと学んだことを <input type="checkbox"/> 過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感をもっていること
<p>■ 行動前の状況※</p> <p>「待ちます」という曖昧な指示</p>		<p>■ 行動後の状況・結果※</p> <p>待てずに静止される、混乱する</p>

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき
1対1で教えるエリアがある	絵、写真の理解できる 時間（時計）の理解はある印をすれば時間の幅をりかいてできる。	

支援計画 ※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります		
<p>環境を変える部分は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人が理解できる文章+絵や印で伝える。 	<p>本人の特性にあわせた支援は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曖昧で、抽象的な指示ではなく、本人がイメージできる時間や過ごし方を提示する（●時●分から●時●分という幅で提示する。 ・待つ時の過ごし方のリストを用意する。 	<p>本人に伝える・教える部分は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待つ時の過ごし方リストからの選び方を教える ・時間になったら終わることを1対1の場面で練習する

解説と支援の方向性について

自閉症の人は見通しを持つことが困難です。いつ終わりが、いつまで待てばいいのか明確ではないと、見通しが持てなくて不安や混乱を感じられる方がいます。また、「もう少し」のような抽象的な表現では、その幅を理解することが理解できないことがあります。「3時ごろ終わり」や時計の絵に幅のある指示を入れたり、本人にあわせた具体的な指示が必要になります。